

施工取扱要領

1. 保管および運搬について


- MCCP 鋼管を長期間保管する場合は、原則として屋内で保管して下さい。やむを得ず屋外で保管する場合は、シート等で覆うなどして、特に外面被覆を損傷しないよう注意して下さい。
また、保管時管体の自重により保管台との接触部に若干のくぼみができることがあります。これは性能上支障はありません。
- 各種積み卸し作業、起重機・フォークリフトによる運搬作業等では、被覆に直接鋭利な部分が接触しないよう注意して下さい。吊り上げには必ずナイロンスリング等、被覆に損傷を与えないような吊り具を使用して下さい。
- 配管作業時には、鋭利な石・砂利等により被覆に損傷を与えないように配慮して下さい。

2. 継手の取付および管路の接続

- 


継手差込長さを確認し*、管路に差込位置へマーキングを行って下さい。
(※：A1 参照)
 - 


継手挿入部全体に塗り残さないように滑材を塗布して下さい。
 - 

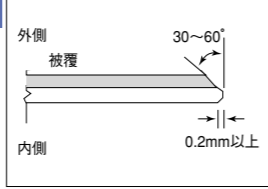
継手を取り付けます。軸心を合わせるように、継手を左右に振りながら押し込むようにすると入りやすくなります。
 - 


互いに軸心を一致させた後、接続を行います。管端をバール等で押し込むことにより人力で接続できます。
- 注) 継手接続時には必ず確実に接続されているかご確認下さい。

3. 現場での切管および継手取付のための管端処理作業

- 

通常の鋼管と同じ要領で切断します。チャック部が鋭利な場合や締付力が強い場合など被覆を損傷する恐れのある場合はゴムシート等を介して下さい。
- 

グラインダーまたはヤスリ等を用いて管端内外面の面取りを行います。
- 

図に示すように、管端面を仕上げして下さい。仕上げが悪いと継手挿入性やケーブル導通性を損ねる恐れがあります。
- 

継手を取り付けて完成です。

4. 中間継手（ヤリトリ継手）による管路の接続

- 

管端面取り処理を行った後、管端に滑材を塗布して継手全体を挿入します。
- 

管端から L/2 (L = 中間継手長さ) の位置にマーキングをします。
- 

管端をつき合わせ、軸心を一致させます。
- 

継手を所定の位置まで戻して接続完了です。

5. パイプの現場曲げ加工要領

- 

事前に MCCP 鋼管の外径にあったパイプベンダーをご用意下さい（ご不明な場合はご相談下さい）。
- 

管路材に、押込み位置を 10～20 cm 間隔でマークを記入すると曲げ加工が行いやすくなります。角材などを定規として用いるとさらに効率的に加工できます。
- 

現地の曲線に合うよう、曲げ加工を行います。平面曲げを行う場合は管路材を水平に保って曲げ加工を行って下さい。
- 

曲げ加工完了状況

6. ハンドホールとの接続

- 


管路とハンドホールの接続に、ダクトスリーブまたはベルマウスを用いる場合は、予めハンドホールの寸法等をご確認下さい。
- 


ダクトスリーブは、現場または工場にてハンドホールに取り付けます。
- 


管端に滑材を塗布した後、バールまたは木槌等を用いて所定の位置まで挿入して下さい。
- 


ハンドホールへの取付完了状況

7. プルボックスとの接続

- 

専用のプルボックス接続継手をご利用下さい。なお、MCCP 鋼管に対して直接ネジ切り加工を行うと強度不足となる恐れがあるためご注意下さい。
- 

プルボックス側に継手を取り付けます。
- 

長さ調整、管端面取りを行った後、管接続を行います。管取付部、プルボックスとの接合部をしっかりと取り付けて下さい。
- 

プルボックスとの取付完了状況

8. 被覆損傷部の補修方法

- 

万が一、被覆を損傷した場合、損傷の程度によって必要になります（一般に被覆残量が 0.3 mm 程度の軽微な損傷であれば補修の必要がありません）。
- 

原管および被覆層表面に付着した水分、錆、土砂、粉塵等をブラシ等で入念に清掃します。
- 

被覆が損傷している部分に防食剤を均等に塗布して下さい。この際、原管表面の粘着剤は除去する必要がありません。
- 

ポリエチレンまたは塩ビ製のテープを最低 2 回巻きしてください。なお、テープを巻く際は引っ張りながらしわの寄らないようにして下さい。

9. その他の注意事項

- 樹脂管との異種接合の際は、MCCP 鋼管の外径が、使用する異種管継手に適用するかどうか事前に確認下さい。
ちなみに、MCCP 鋼管の外面被覆を除去することで、樹脂管—SGP 管用異種管継手がすべて適用できます。
- 管路の埋め戻しは、山砂などを用いて隙間等のないよう十分に締め固めを行って下さい。